

令和5年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立新東三国小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は比較的、安全で落ち着いた学習環境を有するが、今後さらに安全性を高めるためにハード面(平成28年度より始めた遊具エリアの土壌改修等)とソフト面(いじめ、不登校などを保護者、地域とも連携しながら解消あるいは未然防止すること等)の両面についてバランスをとって推進していく必要がある。

・令和4年度の大阪市小学校学力経年調査では6年は全科目で大阪市の平均点を上回り、5年は国語科・算数科が大阪市の平均点を上回り、学力面について優良な成果をあげている。記述問題や「読むこと」の領域についても大阪市平均を上回っている。しかし、4年は全科目で大阪市の平均点を下回っていた。3年は国語科・理科は大阪市の平均点を上回っている。3、4、6年は「書くこと」に課題がみられた。

・体力面については全国体力・運動能力、運動習慣調査において、ほとんどの種目で全国平均と大阪市平均のどちらよりも上回っていたが、男女ともに握力・長座体前屈が下回り、男子はソフトボール投げ、女子では立ち幅跳び下回り、それぞれに課題がみられたので、課題解決の取組が必要である。

・「全国学力・学習状況調査」の結果より、平均正答率は、国語科、算数科、理科のすべてにおいて、大阪市平均、全国平均を大きく上回っている。平均無解答率は、国語科は大阪市平均より上回り、全国平均より下回っている。算数科と理科における無解答率は、大阪市平均、全国平均より下回り、良い結果であった。あきらめずに最後まで取り組もうとした姿勢がうかがえる。

・『総合的な言語活動を通して、読解力を中心とした思考力・判断力・表現力を育成する～国語科を中心として～』をテーマに研究授業に取り組み、児童の「主体的・対話的で深い学び」につながる授業をめざす。また、「読解力」「思考力」「表現力」を高めるために、資料を読んでまとめたり、自分の考えを書いたりする場を多く設定する。小学生からのリベラルアーツ教育を通して、総合的読解力を育成する。

・学校のきまりである「廊下・階段を走らない」「右側通行」の徹底を図るために、いろいろな場面での声かけに努めるようにしたが、十分とはいかない。階段に英語や九九のプレートを貼り、右側を意識できるようにしているが、さらに視覚的に「右側通行」を意識できるようにする必要がある。学校のきまりにおいては、継続しての指導が必要である。

・若手教員が増加しているので、若手教員育成を推進する必要がある。「学力向上支援チーム事業」のスクールアドバイザー(SA)と連携し、OJT(校内研修)の活性化を図る。

・新型コロナウイルス感染症による学校行事等への影響がある中での学力保障を図る必要がある。一人一台学習者用端末の持ち帰りやデジタルドリルの活用を図っていく。

・コロナ禍における地域や保護者との連携のしかたを検討する。

デジタル教材の活用

保護者への周知

地域の方との協働による防災活動

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、令和 3 年度（94%）と同様に維持する。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の大阪市小学校学力経年調査において、全学年、全科目の 9 割以上で大阪市の平均点を上回る。
- 令和 7 年度の英検 Jr. において、ブロンズ級受検者、シルバー級受検者の 80%以上が合格標準点を取る。そのことにより、高学年ではゴールド級受検者が 5 %以上になるようにする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査・国語科の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率を、令和 3 年度（56.9%）より 5 ポイント増加させる。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、令和 3 年度より 3 %増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- デジタル教材を活用した学習を週 2 回以上実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 80%以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76.5%以上にする。
- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者の思いや願いを生かすよう、努めている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を令和 3 年度（79%）より 5 ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を75%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・ 年度末の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、肯定的回答を例年同様に90%以上を維持する。
- ・ 年度末の児童アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・ 年度末の児童アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。（R4 36.4%）
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。（R4 78%）
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。（R4 全国体力調査 64.5%）

学校園の年度目標

- ・ 子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組み、小学生からのリベラルアーツ教育を実施し、言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力などの育成に取り組む。「主体的・対話的で深い学び」の授業を行う。
- ・ 英検 Jr. を4年生以上の児童が受検し、ブロンズ、シルバー、ゴールドの各級受検者の平均点が、それぞれ全国の平均点並みにする。
- ・ 複数の小学生新聞を活用し、朝学習で視写に取り組む。小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」（難しいと思わない）「どちらかといえば、そう思わない」（どちらかといえば、難しいとは思わない）と答える児童の割合を45%以上にする。（R4 平均46%）
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。（R4 全国体力調査 64.5%）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

- ・デジタル教材を活用した学習を週2回以上実施する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- ・デジタル教材を活用した学習を週2回以上実施する。
- ・ゆとりの日を月に1回以上設定する。
- ・校内研修を活性化させ、若手も経験年数の多い教員も一丸となって「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。
- ・「学校図書館の毎日開館」「特色ある図書館の活用」を実践するために地域の協力を得ながら、ボランティアによる開館の管理や朝の読み聞かせを実施する。
- ・生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。

【その他】

3 本年度の自己評価結果の総括

安全・安心な教育の推進では、「学校安心ルール」の徹底を行い、児童が安心して過ごせる教育環境の実現を図ることに取り組み、取組内容については概ね達成できた。規則尊重やいじめ撲滅に対しての意識向上を図ることができていた。児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目における肯定的回答の割合は、91%と目標を維持した。また、全学年で、いじめアンケートを指標通り年3回実施し、「ある」と回答した児童への聞き取りや関係児童への対応を100%行い、記録の保管もしている。児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目における肯定的な回答の割合は、98%と目標を達成した。指標通り、生活指導連絡会を毎月実施し児童の実態を共有してきた。また、関係諸機関の協力も得ながら子どもサポートネットやケース会議を活用し、その内容を教職員で共有してきた。

次に、未来を切り拓く学力・体力の向上では、文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組み、小学生からのリベラル・アーツ教育を実施し、言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力などの育成に組み、「主体的・対話的で深い

学び」の授業を行ってきた。「しんひがりベラル・アーツ」を掲げ、学習中はペアトークやグループディスカッションなど、考えを交流する場を多く持つようにした。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 36.8%であり(R4 36.4%)、昨年度より 0.4 ポイント上回った。

継続して全学年で英語音声指導に取り組むと共に、教員の英語指導力の向上のために積極的な研修・研究授業を推進し、児童の英語力を向上させ、英語が楽しいと感じられるように英語教育の強化を図ってきた。小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%であった(R4 78%)。また、児童アンケート「英語が楽しい」と回答する児童が 82%であった(R4 78%)。

子どもたちの健康増進のために、様々な取組を進めてきた。運動に関しては、児童が積極的に体を動かし、進んで体力づくりに取り組めるよう運動週間を設定した。しかし、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が 63.5%で指標の 65%にわずかに届かなかった。食育に関しては、「食に関する指導の年間計画」に基づき、食に関する児童の興味・関心を高めてきた。また、睡眠・清掃などの生活習慣などに焦点をあて、日々の生活を見つめられるようにし、SDG s の取組が日々の生活へとつながるようにしてきた。食育では、学年ごとに作成した「食に関する指導の年間計画」に基づき、学年ごとの目標を設定し、年間 3 時間以上の食育の学習を行い、食に関する児童の興味・関心を高めることができた。清掃では、掃除ロッカーの整備を学期に 1 回以上行い、環境整備に努め、清掃を進んで行う児童を育てることができた。健康では、毎週の清潔調べで、ハンカチ 89%ティッシュ 84%とハンカチのみ指標の 85%を上回っていた。

最後に、学びを支える教育環境の充実について、ICT 機器を活用して、考えを表現するためのプレゼンテーションを行ったり、一人一台学習者用端末を活用した学習に取り組んだりしてきた。検索機能を使つての調べ学習、カメラ機能を使つての観察・見学の記録や撮影した動画を再生視聴しながら主体的に学習に取り組むなど、一人一台学習者用端末を授業で活用できた。ICT を活用した授業時数については、1 年 20 時間、2 年 24 時間、3 年 30 時間、4 年 38 時間、5 年 35 時間、6 年 23 時間と指標を達成できた。

学校目標の達成に向け、教職員が「チーム新東三国」を意識し、心一つに取り組んできた成果が少しずつ実を結んできた。運営に関する計画を常に PDCA サイクルで実態把握し、点検・改善をしながら年間を通して遂行してきたことで、児童が主体的に行動し、意欲的に学習する姿勢につながった。

大阪市立新東三国小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を75%以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の児童アンケートにおいて「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的回答を例年同様に90%以上を維持する。 ・ 年度末の児童アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ・ 年度末の児童アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校安心ルール」の徹底を行い、児童が安心して過ごせる教育環境の実現を図る。 (安全教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、肯定的回答を例年同様に90%以上を維持する。 ・ いじめアンケートを年3回行い、「ある」と回答した児童に聞き取りをしたり、集団へ指導したりすることを100%行う。すぐに解決できない事案については、いじめ対策委員会に報告し、いじめの解消に向けて全教職員での取組を100%行う。なお、必ず記録を残す。 ・ 毎月の生活指導連絡会や子どもサポートネットやケース会議で児童の様子を報告し、共通理解を図り、組織的に課題への対応にあたる。 | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>異学年交流や係活動、委員会活動や道德教育、地域交流などを通して、児童が自分の良さに気づく体験の場を設ける。 (道德教育の推進、人権を尊重する教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」の項目において、肯定的回答を80%以上にする。 ・ 全国学力学習状況調査「人の役に立ちたいと思いますか」の項目において、肯定的回答を90%以上で維持する。 | B |

| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童アンケートにおける「気持ちのよいあいさつをしている」の項目について、肯定的回答を80%以上にする。 ・児童会を中心として、地域や保護者と連携し、あいさつ運動を年3回行う。 ・各委員会が児童会目標の達成に向けた活動を年1回以上企画・運営する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」への肯定的回答の割合は、91%と目標を達成している。 ・児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」への肯定的回答の割合は、98%と目標を達成している。毎学期、全学級でいじめアンケートを実施し、聞き取りや指導、記録の保管を徹底してきた。結果、未然予防・早期対応につながり継続的ないじめ事案は発生していない。 ・児童理解研修や毎月の児童理解を通して、児童の実態を共有することができた。また、毎学期、外部講師による「愛着障がい」の研修会およびケース会議を行い、児童の実態や対応方法について共通理解を図ることができた。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」の項目において、肯定的回答の割合は、84%と目標を達成している。 ・年度末の児童アンケートにおける「気持ちのよいあいさつをしている」の項目について、肯定的回答の割合は、83%と目標を達成している。 ・地域や保護者と連携し、あいさつ運動を計画通り実施することができた。毎回「めあて」を具体的に示したことで、児童が目標をもって取り組むことができていた。 ・異学年交流や委員会活動など児童一人ひとりのよさが発揮できる場を設けている。 ・委員会発表、〇〇週間や〇〇運動など、各委員会で児童会目標の達成に向けた活動を、年1回以上行うことができた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「学校の決まり・規則を守っていますか」への肯定的回答の割合が高い一方で、きまりを守ることができていない場面が見られる。特に、廊下や階段を走る児童が多い。朝会や学級での指導を通して、廊下や階段を安全に歩行することも学校の決まりの一つであり、安全に学校生活をおくるために大切なことであると、意識付けしていく必要がある。 ・また、「学校の決まり」について、教職員間での共通理解をさらに図る、年度当初から児童に意識付けする、校内掲示を工夫する、といった点を検討する。 ・いじめ対策を始め、生活指導上の対応については、スクールライフノートの「相談機能」の活用方法や、いじめアンケート結果の共有方法を検討する。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人のことを見て行動したり、自信がなく発表をためらったりする児童が多い。児童が自信をもって行動したり、達成感を得られたりする取組を各学年で工夫する必要がある。 ・あいさつ運動では、全児童からあいさつ隊を募るなど、あいさつ運動を広めていく取組が必要である。 ・あいさつはできるが、「自分からすすんであいさつできる」児童を増やす必要がある。 ・コロナ禍以前に行っていた地域との交流を整理し、良いものは計画・実施する。 ・各委員会からの企画が詰まりすぎている時期があったので、日程調整が必要である。 | |

大阪市立新東三国小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | | |
|------|-----------------------|--------------------------|
| 評価基準 | A : 目標を上回って達成した | B : 目標どおりに達成した |
| | C : 取り組んだが目標を達成できなかった | D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。(R4 36.4%) ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 ・ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R4 78%) ・ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 65%以上にする。(R4 全国体力調査 64.5%) <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組み、小学生からのリベラルアーツ教育を実施し、言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力などの育成に取り組む。「主体的・対話的で深い学び」の授業を行う。 ・ 英検 Jr. を 4 年生以上の児童が受検し、ブロンズ、シルバー、ゴールドの各級受検者の平均点が、それぞれ全国平均点以上になるようにする。 ・ 複数の小学生新聞を活用し、朝学習で視写に取り組む。小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」(難しいと思わない)「どちらかといえば、そう思わない」(どちらかといえば、難しいとは思わない)と答える児童の割合を 45%以上にする。(R4 平均 46%) ・ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 65%以上にする。(R4 全国体力調査 64.5%) | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」に取り組み、小学生からのリベラル・アーツ教育を実施し、言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力などの育成に取り組む。「主体的・対話的で深い学び」の授業を行う。</p> <p>(言語活動・理数教育の充実)(「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> | B |

| | |
|---|---|
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」(難しいと思わない)「どちらかといえば、そう思わない」(どちらかといえば、難しいとは思わない)と答える児童の割合を 45%以上にする。(R4. 46%) ・ 小学校学力経年調査における「読むこと」「記述式回答形式」の平均正答率を「読むこと」70%「記述式回答形式」60%以上にする。(R4. 「読むこと」71%「記述式」54.7%) ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。(R4 36. 4%) | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>継続して全学年で英語音声指導に取組むと共に、教員の英語指導力の向上のために積極的な研修・研究授業を推進する。また、児童の英語力を向上させ、英語が楽しいと感じられるようにする。(英語教育の強化)</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修計画にそって、英語の公開授業を年に 3 回以上実施する。 ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R4. 78%) ・ 児童アンケート「英語が楽しい」と回答する児童を 80%以上にする。 ・ 英検 Jr. において、ブロンズ、シルバー、ゴールドの各級受検者の平均点を、それぞれ全国の平均点以上にする。 | B |
| <p>取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>子どもたちの健康増進のために、様々な取組を進める。体を動かすことに喜びを感じ、進んで体力づくりに取り組む子どもを育てる。また、「食に関する指導の年間計画」に基づき、食に関する児童の興味・関心を高める。睡眠・清掃などの生活習慣などに焦点をあて、日々の生活を見つめられる子どもを育てる。SDGs の取組が日々の生活へとつながるようにしていく。(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> | |
| <p>指標</p> <p>【運動】・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 65%以上にする。(R4 全国体力調査 64.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に運動に励むように、年 3 回以上の運動週間を設定する。 <p>【食育】・ 学年ごとに作成する「食に関する指導の年間計画」に基づき、学年ごとの目標を設定し、年間 3 時間程度の食育の学習を行い、食に関する児童の興味・関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学級で給食目標や給食だより等を用いて、食に関する指導を月 1 回以上行う。 ・ 「学校では、食べ物や栄養について学んでいる」という項目の肯定的な回答割合を 85%以上にする。 <p>【清掃】・ 委員会児童による清掃チェックを学期に 1 回以上行い、環境整備に努め、清掃を進んでおこなう児童を育てる。</p> <p>【健康】・ 毎週の清潔調べで、ハンカチ・ティッシュを持ってくる児童の割合を 85%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学級でほけんだよりや保健の月目標等を用いて、健康に関する指導を月 | B |

| | |
|---|--|
| <p>1 回以上行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活習慣について、児童や保護者の意識を高めていくために、「生活ふりかえりカード」を活用した取組を年に 2 回行い、保健だよりで結果を知らせると共に、児童へ指導する。 | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に「そう思わない」（難しいと思わない）「どちらかといえば、そう思わない」（どちらかといえば、難しいとは思わない）と答える児童の割合は 41.6%であった。（R4. 46%） ・思考ツールの活用や、授業形態の工夫、朝学習の充実などを行った。さらに研究授業や公開授業、研修会などを通し、「読む力」「書く力」の育成へ向けた授業展開の工夫を行うことで、自分の考えを文章に書くことができるようになった。 ・小学校学力経年調査における「読むこと」「記述式回答形式」の平均正答率は、「読むこと」62%「記述式回答形式」58.4%であった。（R4.「読むこと」71%「記述式」54.7%） ・「総合的読解力育成カリキュラム」や、国語科の研究に取り組んだため、文章中の重要な言葉を見つけ、要約する力がついてきた。 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 36.8%であった。（R4 36.4%） ・ペアトークやグループワークなどを取り入れた授業を行った。 <p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 回以上の公開授業と研修を実施できた。 ・短時間学習や外国語活動、外国語の学習を通して、児童が英語に楽しく、慣れ親しむように取り組めた。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 75%であった。（R4. 78%） ・児童アンケート「英語が楽しい」と回答する児童が 82%であった。 ・英検 Jr. における各級受検者の平均点は、ブロンズ（本校 84、全国 86）、シルバー（本校 80、全国 81）、ゴールド（本校 75、全国 74）であった。 <p>取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>【運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が 63.5%（R4 全国体力調査 64.5%）であり、運動やスポーツを最も「好き」を回答する児童の割合は減っている。 ・学期に一回以上運動週間を行い、計 9 週間実施でき、児童が運動場に出て運動する機会を増やすことができた。 <p>【食育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの目標を設定し、学年で年間計 3 時間以上食育の学習を行い、食に関する児童の興味・関心を高めることができた。 | |

- ・各学級で給食目標や給食だより等を用いて、食に関する指導を月1回以上行った。
 - ・食育の学習や給食放送、給食週間などを通して、「食べ物や栄養」について学習した。
- 【清掃】
- ・委員会児童による清掃チェックを学期ごとに行い、清掃を進んでおこなう児童を育てることができた。
- 【健康】
- ・毎週清潔調べを行い、ハンカチは89%、ティッシュは84%（1月まで）であり、ティッシュが目標を下回っている。
 - ・各学級でほけんだよりや保健の月目標等を用いて、健康に関する指導を月1回以上行った。
 - ・「生活振り返りカード」を年に2回行い、生活習慣の向上への意識を高めることができた。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・まだ自分の考えを文章で表現することが苦手な児童がいるので、引き続き取組を継続する。
- ・自分の考えを持つことができても、人と違う意見の場合に自信が持てず、発表を躊躇する児童がいるので、人と違っても自信を持って発表ができるような活動を取り入れるようにする。
- ・研究授業等の取組を普段の授業に生かしつつ、実践を継続する。

取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・今後は、公開授業だけでなく、担任も取り組める指導力を高める授業づくりの研修を計画する。
- ・外国語科や外国語活動の授業や短時間学習を工夫やイングリッシュデーの活動などを通して、児童が英語に親しんだり、楽しんだりする取組を継続する。

取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】

【運動】

- ・運動やスポーツを好きと感じるように、様々な運動週間を計画していく。
- ・積極的に運動に励むように運動週間を学期に1回以上、計画していく。

【食育】

- ・食育の学習を行い、食に関する児童の興味・関心を高めていく。
- ・各学級で給食目標や給食だより等を用いて、食に関する指導を月1回以上行う。
- ・「食べ物や栄養」について、食育や給食放送などで学んでいく。

【清掃】

- ・清掃チェックを学期ごとに1回以上行い、清掃を進んでおこなう児童を育てていく。

【健康】

- ・前日に委員会による放送や学級での指導でハンカチ、ティッシュを持ってくる児童が増えるようにしていく。
- ・各学級でほけんだよりや保健の月目標等を用いて、健康に関する指導を行っていく。
- ・「生活振り返りカード」を前期、後期で行い、さらに生活習慣への意識を向上できるようにしていく。

大阪市立新東三国小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | | |
|------|-----------------------|--------------------------|
| 評価基準 | A : 目標を上回って達成した | B : 目標どおりに達成した |
| | C : 取り組んだが目標を達成できなかった | D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を活用した学習を週 2 回以上実施する。 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 80%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を活用した学習を週 2 回以上実施する。 ・ゆとりの日を月に 1 回以上設定する。 ・校内研修を活性化させ、若手も経験年数の多い教員も一丸となって「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。 ・「学校図書館の毎日開館」「特色ある図書館の活用」を実践するために地域の協力を得ながら、ボランティアによる開館の管理や朝の読み聞かせを実施する。 ・生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。 | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>ICT 機器を活用して、考えを表現するためのプレゼンテーションを行ったり、一人一台学習者用端末を活用した学習に取り組んだりする。 (ICT を活用した教育の推進)</p> <p>指標 ICT 機器を活用して、自分の考えをプレゼンテーションしたり、他者の考えを受けて、意見交流する場を設定したり、デジタル教材を活用したり、プログラミングに取り組んだりする総時数を、1 年は年間 10 時間以上、2～3 年は年間 12 時間以上、4～6 年は年間 15 時間以上実施する。</p> | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」にそって、負担軽減に向けた様々な取組を推進する。 (働き方改革の推進)</p> <p>指標 ・ゆとりの日を月に 1 回以上設定する。</p> | B |
| <p>取組内容③【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>校内研修を活性化させ、若手も経験年数の多い教員も一丸となって「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進する。全員公開研究授業の中で、お互いに学びあい、日々の授業改善にいかしていく。 (教員の資質向上)</p> | B |

| | |
|--|---|
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員公開研究授業を年間 1 回以上行う。 ・ メンターを中心に、指導法の研修・研究を進め、年間 10 回以上の公開研究授業を実施する。 ・ 日々の授業改善につなげるために、研究討議会で話し合ったことを 100% 記録・整理する。 ・ 思考ツールを活用した授業を年間 1 回以上行う。 | B |
| <p>取組内容④【基本的な方向 8、生涯学習の支援】</p> <p>「学校図書館の毎日開館」「特色ある図書館の活用」を実践するために、図書委員会や地域のボランティアによる開館の管理や朝の読み聞かせを実施する。</p> <p style="text-align: right;">(学校図書館の活性化)</p> | B |
| <p>指標</p> <p>月 1 回以上、読書を家庭学習にする。また、年 2 回以上、読書週間を実施する。</p> | |
| <p>取組内容⑤【基本的な方向 9、家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <p>生涯学習ルームや地域活動協議会との連携による安全で安心な教育コミュニティを形成する。</p> <p style="text-align: right;">(教育コミュニティづくりの推進)</p> | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方々との交流を全学年で行う。 ・ 地域や保護者との協働行事として、防災訓練、引き渡し訓練、新東三国イングリッシュデイを計画的に実施する。 | |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カメラ機能を使った観察記録、検索機能を使つての調べ学習、デジタル教科書や動画資料による視覚的支援、デジタルドリルを使った一人学びなど、一人一台学習者用端末を授業で活用した。 ・ 発表ノートを活用しての意見交流やアプリを使つてのプレゼンテーション、スクラッチ、ビスケットなどを使ったプログラミング学習を行った。 ・ ICT を活用した授業時数（1 月末現在） <p style="text-align: center;">(1 年 20 時間、2 年 24 時間、3 年 30 時間、4 年 38 時間、5 年 35 時間、6 年 23 時間)</p> <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ゆとりの日」や「研究の日」の設定、SSS によるサポートなどにより、教職員の負担軽減を進め、働き方を改善した。 <p>取組内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員が公開研究授業を年間 1 回以上行うことができた。 ・ メンターを中心にスクールアドバイザーと連携し、主に国語科の研修・研究を進め、計 23 回の公開研究授業を実施することができた。 ・ 研究討議会で話し合ったことを 100% 記録できた。 ・ 思考ツールを活用した授業を年間 1 回以上行うことができた。 <p>取組内容④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の最終金曜日に「家庭読書の日」を設定し実施できた。 ・ 11 月と 2 月に読書週間を実施し、読書郵便や電子絵本の読み聞かせ、対面での読み聞かせを行うことができ、図書室への来室者が増えた。 ・ 図書委員会の「読書ノート」や「もう一冊借りられる券」の取組により、図書館に足を運ぶ児童が増えた。 ・ 図書委員会によって毎日開館できた。 | |

取組内容⑤

- ・防災学習、交通安全教室、緊急時引き渡し訓練、朝の読み聞かせ、足はやダンス等に、地域の方々や保護者と連携して取り組むことができた。合同防災訓練では、防災リーダーや各地域代表と教職員が事前に打ち合わせをしたことにより、昨年度以上に協働して訓練に取り組むことができた。
- ・イングリッシュデイでは、昨年度に教材を整理したことにより準備と C-NET との打ち合わせが円滑に進んだ。当日は、C-NET とともに英語活動を楽しむことができた。
- ・また、学年での地域交流を少しずつ進めることができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・一人一台学習者用端末をプレゼンテーションや意見交流の場で活用するための指導力向上。
- ・プログラミング学習、情報モラル学習の促進。
- ・ICT 教育アシスタントの効果的な活用。

取組内容②

- ・「ゆとりの日」や「研究の日」の設定の継続。
- ・行事や会議、各学年での取組等の精選および時間の短縮。

取組内容③

- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための視点に沿って、公開研究授業後に討議会を行うことで、より一層授業改善にいかしていく。

取組内容④

- ・地域ボランティアによる開館の検討が必要。「特色ある図書館の活用」としての地域との連携が、ボランティア「ほっぺ隊」による読み聞かせにとどまっている。コロナ禍で中止したボランティアによる開館・管理を今後どうしていくのか、検討が必要。

取組内容⑤

- ・合同防災訓練について、各町会代表と各町会担当教職員との打ち合わせ日を今年度より早めに設定し、余裕を持って準備できるようにする。教職員と地域の方との役割分担を整理し、お互いが動きやすくなるようにしていく。
- ・イングリッシュデイについては、地域の方や保護者の参加・交流について検討する。
- ・感染症の状況が落ち着いてきたので、各学年での地域交流について内容を検討する。